

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 東濃高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和7年1月16日(木) 13:15~15:15
- 3 開催場所 東濃高等学校 図書室
- 4 参加者
- | | | |
|-----|--------|----------------------|
| 会長 | 筒井 幹次 | 御嵩町副町長 |
| 副会長 | 佐口 清道 | 会社役員 |
| 委員 | 奥村 恒也 | 御嵩町教育長 |
| | 各務 眞弓 | 可児市国際交流協会・フレビア事務局長 |
| | 嶋崎 友美 | PTA副会長 |
| | 田中 妙子 | 税理士 |
| | 仲谷 ちぐさ | PTA副会長 |
| | 矢島 幹也 | 一般社団法人 てらす 代表理事 |
| | 山田 泰平 | 東海化成工業(株) 業務部人事・総務課長 |
| | 渡邊 剛 | 地域代表 (欠席) |
| 学校側 | 吉田 益穂 | 校長 |
| | 柴田 純孝 | 教頭 |
| | 土本 繁 | 教頭 |
| | 野田 幹也 | 事務長 |
| | 佐合 ゆかり | 教務主任 |
| | 前田 知美 | 生徒指導主事 |

5 会議の概要(協議事項等)

(1) 「東濃高等学校に期待される社会的役割等(スクール・ミッション)」の策定について

意見1: 「共に育ち学ぶ」とあるが、学校なので「学び育つ」の方が適切ではないか。

⇒ 学校生活の中で育ち、育ちの中で学びを身に付けていくことと考えた。指摘も納得でき、協議会で判断してほしい。

意見2: 「ふるさと」を大きな視点でとらえ、様々な国の生徒が本校の場に集まって、コミュニケーションをとっている。育つ中で学んでいく視点がよいのではないか。

意見3: 「学ぶ」は狭義なイメージで、「育つ」は発展的な印象を受ける。色々な個性を持った生徒たちが「共に育つ」のほうが発展的である。

意見4: 教育委員会からの修正案は「学び育つ」の印象が強いが、本校の提案では「育つ」を重視している思いが感じられる。

意見5: 多様性のある本校では「共に育ち学ぶ」がしっくりくる。(複数)

➡ 「共に育ち学ぶ」の意見が多く、今回の提案どおり了承された。

別紙様式3

(2) 令和6年度自己評価・学校関係者評価について

意見6：分かる授業について、教職員の苦労や努力がうかがえる。

意見7：本校の持ち味である、多様性を生かした取り組みを引き続き進めていくとよい。

意見8：外国につながる生徒が、経済的理由から進学を断念する場合もあるそうだが、1年次のうちから進学のための準備について継続的に伝えるとよい。（複数）

意見9：遅刻を何度も繰り返す生徒については、生活習慣が改善できるよう根気強く指導にあたってほしい。

意見10：服装の乱れは、制服が今の時代に合っていないからかもしれない。制服の見直しを検討することも必要ではないか。

意見11：地域の幼保小中連携での交流体験を通して、教員を目指したいという生徒が出てくるとよい。

意見12：通級での指導では、相手に自分のことを伝えることができることが大切だと思う。

意見13：働き方改革により、教職員の負担は減ってはいるが、まだまだ頑張りすぎている。分担できることは分担し、笑顔で生徒に接してほしい。

意見14：教職員の時間外勤務時間は、数字だけでなく実態を見てほしい。教職員の余裕が生徒支援につながる。

意見15：本校の教職員が中学校の公開授業に多数参加し、交流を深めた。引き続き校種間交流を推進してほしい。

(3) 地域探究類型「学習報告会」の参観（於：ガイダンス室）

(4) 地域探究類型「学習報告会」について

意見16：素晴らしい発表を見せてもらった。（複数）

意見17：昨年に比べて生徒が自信を持ち、内容も深まりがあった。1年間の成長を感じた。

意見18：人とのつながりを大切に、住んでいるところで地域に関わってほしい。

意見19：外国につながる生徒が、SNSで発信したら海外からの観光客も増えるのではないかと。

意見20：観光ルートの作成は、行政と連携して実のあるものにしてほしい。（複数）

意見21：活動の成果を後輩につなげてほしい。発表の声はやや小さかったのは残念だった。

意見22：保護者にも、学習の成果をリーフレットやメールで伝えてもらえるとよい。

意見23：現地調査や発表は生徒にとって貴重な体験である。今後もより多くの学びの場を創出してほしい。

6 会議のまとめ

今回の協議会では、細かな表現にまで腐心して検討いただき、協議会と学校とが思いを一つにしてスクール・ミッションを作り上げることができた。スクール・ミッションに恥じることなく、本校の役割を果たしていきたい。また、学校評価に関して委員から様々な意見や質問をいただいた。経済的理由から進学をあきらめるような厳しい状況について、生徒たちが悲しい思いをしないよう、より早期からの進路情報提供やキャリア形成を促していきたい。そして、生徒たちの自立を目指しつつ、安全・安心な居場所で「楽しい」と思えるような学校づくりに引き続き努めていきたい。